

ディスカッションまとめ：消費者チーム

現状および現状の問題点を抽出・共有（現在）



私たちは消費者の立場で「環境教育の今後の展開」をテーマに話し合いました。

まず、現状の問題点を「場面」、「現実」、「理想」といった3つの側面から挙げました。

場面：「環境教育をする場が少ない」
「学校など教育者の知識不足」

現実：「受験に関係ない」
「学生が忙しく環境問題を考える時間が持てない」

理想：「環境の優先順位が低い」

次に、問題点に対する理想形を考えました。

「環境専門の先生が教える」
「文部科学省が環境を教育指導要領に入れる」

それに対して真逆の発想（ありがたい）



その理想形の実現への具体的な解決策として、「受験科目として『環境』科目をつくり中高生にも積極的に学んでもらう」「学習の基礎である小学生のうちから学校で学ぶ」「必ず学校に1人以上環境専門の先生を置く」

また、「環境の授業の中で特別講義として企業、自治体の取り組みを紹介したり、産学連携として、環境学を専攻する大学生や企業・自治体と共に学校が授業を作ることで内容の幅も広がっていきける」のではないかと考えました。

<感想>

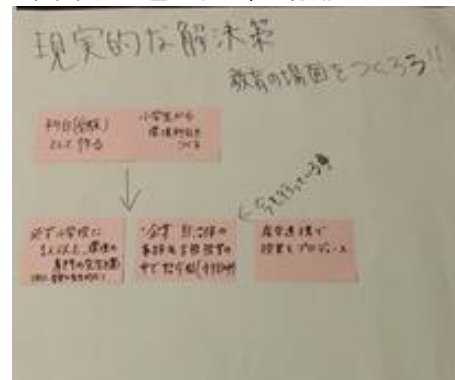
企業の皆さんから環境への取り組み事例をお聞きして、それぞれが特徴的な活動をなさっていると分かり、とても興味深かったです。

一消費者としてどんな製品やサービスを選択すべきか考える重要性を感じました。

また、ディスカッションでは具体的な解決策まで掘り下げて話し合えたので、とても勉強になりました。

学生という立場として、今回のイベントで学んだことを活かして活動をしていきたいと思ひます。

ギャップを埋める方策・行動



ディスカッションまとめ：企業チーム①



私達は「企業活動と現状の地球資源サステナビリティとのトレードオフをどう解消するか」というテーマでディスカッションを行いました。

●問題点として挙げられたのは次の4点でした。

- ① 再生資源の積極利用がなされていない（再生可能資源・エネルギーが十分に使用されていない、環境破壊しているサプライヤーから調達している等）
- ② 企業と消費者のコミュニケーション不足（企業における環境保全活動が十分に知られていない、グリーンウォッシュをしている等）
- ③ 技術開発のスピードと共有化の不足（代替手段・資源の開発スピードが遅い、競合企業の後追い開発による無駄な資源消費等）
- ④ 消費者と企業それぞれの環境への関心の偏り（経済性と環境が結び付きにくく生産分野が優先される、環境配慮商品の購入を消費者の善意や倫理観に頼っている、環境への関心の欠如等）

●各問題についてどのような状態が理想かを考えました。

- ① 再生資源の積極的利用については、再生資源・エネルギーの活用が浸透し多くの企業が十分に使用している、また環境破壊をしていないサプライヤーから調達している状態。
- ② 企業と消費者のコミュニケーションについては、企業側が自社の行っている環境保全活動に関する正しい情報を積極的に開示し、消費者側がその内容を理解している状態。
- ③ 技術開発のスピードと共有化の不足については、代替手段・資源の開発が進み、尚かつ競合企業の後追い開発による無駄な資源消費が行われていない状態。
- ④ 消費者と企業の環境への関心については、人の善意や倫理観に頼らず経済性が同時に環境にも貢献している状態、さらに環境問題や自然環境への関心に偏りなく高い関心を持っている状態。

ディスカッションまとめ：企業チーム②

●それぞれの解決策について話し合い、次のような結論になりました。

- ① 再生資源が積極的に利用されるためには、再生資源のISO/JIS化、税制によるインセンティブ、低コストな再生資源の開発、また認証を受けたサプライヤーからの調達義務付けを行う。
- ② 企業と消費者のコミュニケーションを強化するためには、一般消費者に分かりやすい開示を行う、エコポイントの導入により消費者のインセンティブを刺激し、購買時にQRコードなどで環境情報がわかるようにする、また同種商品でも企業のエコスコアによってエコポイントに差をつけることで、競合企業同士のインセンティブも刺激する。
- ③ 技術開発のスピードと共有化を促進するためには、環境推進においてトップの企業にのみエコポイントを付与する、あるいは業界内で環境に関する先進技術を共有する。
- ④ 環境配慮商品に対し消費者がベネフィットを感じるようにする。特に子供達への環境教育を行うことでより多くの人の関心を高めていく、環境に良いものへのインセンティブを与えるなど。

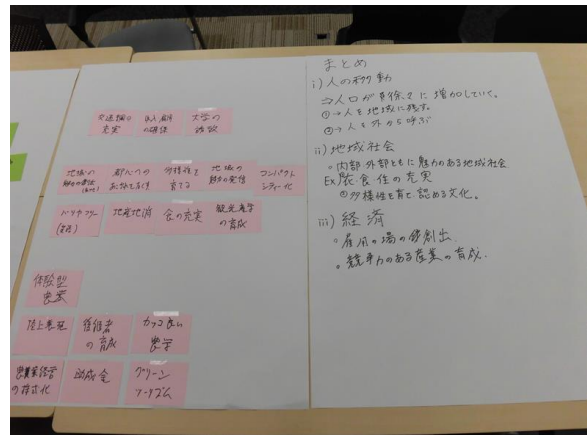
<感想>

今回サステナブルカフェに参加して、立場の違う企業の方と交流を通してとても楽しく貴重な時間を過ごせました。私は知識不足や緊張でうまく話せないところがあったのですが、まずはこういった場でいろんな方々の意見を交えながら考えていくことが関心を高め、幅広い視野で物を考えられるようになるために大切なことだと思います。

そのため私が知らない企業で使われている環境の用語や新しい知識、企業の立場だからこその意見等を聞けてとても勉強になりました。今回のイベントでの経験を活かしてサークルでの活動の幅を広げたり、知識を増やしていきたいと思っています。

またこの様な機会があれば参加したいです。

ディスカッションまとめ：地域チーム



「ECO FIRST—Sustainable CAFE 地域グループ」

我々はどうしたらより地域が活性されるのかということを様々な側面から考察しました。

まず意見を出し合い地域活性という話題に関して現状の問題点を挙げていきました。そして自分たちは問題点を1. 人の移動、2. 地域社会、3. 経済という側面に分類しました。その後のディスカッションはこの三つの大きな分類をもとに進めていきました。

まずはこの現状の問題点の逆である理想像を描きました。そして最終的にその理想の状態に到達できるための具体的手段をできるだけ多く考えました。

まとめとして、1. 人の移動に関してはその土地にいる人をその土地に残し、それと同時にその土地に引っ越ししてくるような人が増えるような魅力的な街づくりをすることで人口が徐々に増加していく社会を作っていくことが大切という結論になりました。

また2. 地域社会については内部の人にとっても、外部の人にとっても魅力のある地域社会の構築が必要ということでまとめました。その魅力ある地域社会の例としては「衣食住の充実」、「多様性を育て認める文化」を内包した社会が考えられます。

最後に3. 経済の面については当然のことながら雇用の場の創出、そして競争力のある産業の育成これが最重要だということになりました。

短い時間の中での議論でしたので、あまり具体的な解決策は出なかったです。しかし大学生とエコ・ファースト企業という大手企業が一緒に議論するという機会はめったにないことなので非常に興味深かったです。

またこのような機会ができてたくさんの交流ができればうれしいです。